

私のいのちなる神への祈りが

教育局長 小川 宣嗣



「昼も夜も 私の涙が 私の食べ物でした。『おまえの神はどこにいるのか』と 人が絶えず私に言う間。……昼には 主が恵みを下さり 夜には 主の歌が私とともにあります。私のいのちなる神への祈りが。」

（詩篇四二篇3、8節）

主によって「祈りの年」として導かれて歩んでいるこの年も、恵みのうちに上半期が締めくくられ、後半へと踏み出します。コロナ禍が表面化して3年目。社会全体が自粛ムードから転換しつつあるように感じますが、祈りのうちに聖霊の導きや知恵を頂いて、次の一人のたましいの救いと建て上げに心を燃やすことができると願うことです。

詩篇四二篇の記者は、鹿が谷川の流れを慕いあえぐように神を慕い求め、神の御前に出ることや神の家にともに集まることの幸い（礼拝の喜び）を思い起こしながら、切なる祈りをささげています。いや、祈りというよりも疑問や叫びやうめきを主につけます。この詩篇の中に見られる問いかけの数々、「いつになれば……、神はどこに……、なぜ私をお忘れ……、なぜ私は嘆いて歩き回るのであるか……」などは、現況の私たちの心に強い共感を伴って響いて来るのではないのでしょうか。しかしまた詩篇記者は、うなだれ思い乱れている状況から脱出する道を知っていて、それを告白しています。信仰によって「神を待ち望め。なおも神をほめたたえるように」と、自分自身のたましいを鼓舞す

るかのように何度も呼びかけます。そこには、自分の心の動揺や弱さや揺らぎをありのままに認める正直さと、なおも神を信頼することを選び取ろうとする信仰的な決意・意志的な告白を見ることができそうです。

3節にあるように、私たちの個人的な歩みや生活においても、教会としての歩みや活動においても、昼も夜も（一日中）、涙を食べ物として過ごさなければならぬような時があるかもしれません。悲しみや悔しさ、無力感や焦燥感などが心に押し寄せる状況に直面することがあるでしょう。しかし、神のみことばはその同じ「昼と夜」が、8節「主が恵みを下さり、主の歌がともにある」時でもあるとの光を与えてくれます。別訳では、「昼に、主は命じて慈しみを私に送り 夜には、主の歌が私と共にある わが生ける神への祈りが」（聖書協会共同訳）となっています。涙の日々や状況こそ、主が命じて備えておられる恵みを深く実感し、主への賛美と祈りが身近に伴う場面となり得る……、それが信仰者の生涯であり醍醐味です。私のいのちなる神への祈りは、本当に恵みの手段であり、主への賛美そのものとなります。

3年越しのコロナ禍は、いつまた次の波が来るかとの不安をぬぐえません。また、世界の平和秩序を根底から揺るがす軍事侵攻がもたらした痛みや恐れは、いよいよ深刻さを増すばかりに思えます。しかし、私のいのちなる神への祈り、主の歌、主の恵みがともにあると信じて、下半期に踏み出して行きましょう。

目次

- 私のいのちなる神への祈りが……小川宣嗣……1
- 聖会の季節、JEA総会報告……2
- 小川亮太郎先生追憶、読書会、JEF 総会報告……3
- 海外トピックス、国内教会局コラム、燭台……4
- 中部ブロック近況と祷告課題、とにキャン、IWF……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

Immanuel

聖会に参加しましょう……

聖会の季節 恵みを求め集まろう

聖会は夏、また秋に開催
対面／配信での聖会になります

教団代表 岩上祝仁

「神の近くににいるのが幸せです。」(詩篇七三篇28節)
インマヌエル教団ではこれから迎える夏、さらに秋に向けて各地で聖会が開催されます。コロナのために開催の難しい聖会もありますが、今年は多くの教区で対面による聖会が再開される予定です。また対面とインターネット併用の開催や、各教会に分かれてDVDで開催など、実情に合わせて聖会が持たれます。少しずつですがコロナ前に戻りつつあります。

3年目にしてようやく聖会が開催できるようになったことを、まず主に感謝しましょう。一方で、宿泊や食事と一緒にするなど、聖会ならではの交わりを再開するのは来年以降になります。とは言え、なんとと言っても聖会の醍醐味は主の御前に出て、主が語られるみことばに耳を傾け、恵みを受け取り、信仰と献身を刷新していただくことにあります。

普段の営みを離れて、神の前に

座すこと、これこそ私たちに必要な霊的な営みです。普段の生活では、私たちは多くの課題や思い煩い、複雑な人間関係、その他さまざまな事柄に心を奪われます。だからこそ私たちは日常から離れて、時を聖別し、神の御前に近づきたいと思えます。

詩篇七三篇の作者は、この地上の悪意やいさかきを目の当たりにして、足はつまづきそうに、信仰の歩みは滑りかけたと告白します。それは人生の上辺だけを見て、人間的な感情や妬み、人をうらやむ思いに囚われていたからだと言います。そうした彼を神は見放すことなく、ともにいてくださいました。神は信仰者の手をしっかりと握ってくださいます。(23節)。
私たちがまた、日常生活の試練や戦いの中で、ともにいてくださる主イエスを目を向け、私たちの手を差し出したいと思えます。それを具体的な行動に表すのが、聖会に出席することではないでしょうか。

聖会に出席し、信仰の仲間とともに主を見上げ、主の恵みを受け取る時に、私たちは改めて思えます。信仰者にとって、なにより素晴らしいことは「神の近くにいること」です。神の愛ときよさに触れ、神のみことばの語りかけを素直に聞いて信仰を養われ、将来への希望をしっかりと握りしめて歩み始めることです。今年も聖会に参加し、神の近くに行き、豊かな恵みを受け取りましょう。

3年振りの総会開催

第37回 日本福音同盟総会

第7回 日本伝道会議へ 開催の意義を再確認 有意義なディスカッションに

浜松教会 葛田直毅

6月6日から8日にかけて静岡県掛川市の「つま恋リゾート彩の郷」で第37回日本福音同盟(JEA)総会が開催されました。昨年は限定された人数でのハイブリッド開催、その前は書面での開催でしたので、対面での開催は3年ぶりとなります。インマヌエルからは岩上代表以下5名が総会代議員として出席しました。

石田敏則理事長により、使徒の働き二章40、47節から開会礼拝のメッセージが取り次がれました。記されている3つの「一つになつて」が心にとまりました。語られたみことばのように、心を一つにして総会のプログラムがスタートしました。

今回は規約改正等の大きな議題はありませんでした。昨年度の事業・会計報告、今年度の予算、事業計画の3つの議案が審議され、それぞれ承認されました。今回は特に、援助協力委員会の報告に付随して、ウクライナ支援に関して、

ワールド・ビジョン・ジャパンの子ども支援の活動、また現地(ポランド)に赴かれたハンガー・ゼロの近藤兄の報告がありました。今回の総会の大きな目的の一つは、来年開催される第7回日本伝道会議(JCE7)に向かう準備です。JCE7実行委員会からの報告とともに、今回はグループに分かれて2回のディスカッションがあり、JCE7の宣言文について、また「これからのJEAとJCE」というテーマで話し合いました。

JCE7の主会場となる岐阜の長良川国際会議場は、コロナのために人数の制限がありました。現在は緩和され、収容人数も変わり、そのため開催の最終的な形がまだ流動的です。

今回の参加は、まずJCE7協力団体としての団体参加、そして団体からの派遣という形での参加



となります。加えてオンライン参加も予定されています。

今後、全国を縦断するような形で一年をかけて、地区大会が開催されていきます。また9月には一年前大会となる宣教フォーラムが長良川国際会議場を会場として開催されます。ここに来て、いよいよ準備が加速されます。

閉会礼拝(水口功理事、ローマ一六章1-7節)をもって3日間の日程を終えました。

インマヌエルからは、JEAに副理事長として内山勝師、岩上敬人師を総主事として、また田辺寿雄師を国際渉外室長として派遣しています。葛田聴毅師の青年委員長は今年で終了しましたが、私の援助協力委員長としての任期はあと一年続きます。今後もJEAの働きのため、またJCE7のために祈りとご協力をよろしくお願いいたします。



追憶

故小川亮太郎先生

2022年5月26日(ご召天(享年94))



父・小川亮太郎は、去る5月26日(木)午後10時44分、94年余りの地上生涯を走り終えて、天に召されました。諸事情を考慮し、葬儀は家族葬の形で、父がみ救いへと導かれ、また定住伝道師としてのご奉仕が許された愛する船橋教会において執り行われました。

父は1927(昭和2)年に川崎に生まれ、終戦直前の大空襲によって焼け出され、無一物で船橋に移住します。そこで船橋教会に導かれ、23歳の時に岩城幸策師より受洗。インマヌエル医務部の手伝いをしたことがきっかけとなり、長谷川正子先生の紹介でPTL(ポケット聖書連盟)の働きに加わって、ジョン・ローズ宣教師とともに、北は青森県から南は鹿児島県までを車で巡り、ムーディー科学映画を上映してはヨハネ福音書分冊を頒布して伝道するという生活を約10年継続しました。

その後、岩城師のご配慮によって船橋教会の献身者となり、北浦和の神学院に通学聴講をして、勸士から定住伝道師となります。以来、岩城師、田中敬康師、竿代忠一師と3代の主任牧師方に仕えて教会でのご奉仕が許され、74歳の時に牧師職を引退しました。

父は若い時から体が弱く、何度も肺結核を患い、特に3度目は片肺のかかなりの部分を切除し、1年半の療養生活を通りました。性格的にも気が弱く、優し過ぎるようなところがありました。しかし、教会の皆様の愛に支えられつつ、特に受付係として笑顔で人々を迎え、笑顔で送り出すことを喜びとして生涯を歩みました。「私は悪の天幕に住むよりはむしろ神の家の門口に立ちたいのです」(詩篇八四・10)の聖句のように、父にとつての神の家の門口、船橋教会の受付に恵みの居場所が与えられたことは、本当に幸いでした。

父を覚え、愛の交わりを頂いた敬愛する皆様、心からの感謝と御礼を申し上げます。ありがとうございます。

(小川宣嗣)

牧師たちによる読書会

葛田二雄先生の『喜悦の盈満』分ち合いの恵み

生涯学習課 葛田順子

4月号でご案内した読書会の第1回が5月26日に行われました。取り上げている良書は、ご案内のとおり、葛田二雄先生の『喜悦の盈満』です。参加者は10名でした。

1回1講ずつということ、今回は第1講「きよめと力」を学びました。まずポイントを全員で確認した後は、グループに分かれて分かち合いの時。心に留まったことや、改めて確認したことなど、互いになさずき合いながら、幸いな時となりました。最後はまた全体に戻って、分かち合いの報告をシェア。感じたこととして共通していたのは、書かれていることが古くて新しいこと、人の問題とその解決は時代が変わっても変わらないこと、そして何よりこのメッセージが、みこころを正面から受け止めようとするところから生まれてきているということでした。

恵みとともに、共通の課題として分かち合われたのは、自分がどう生きているか。そして同時に、どう語り、伝えていくかというこの濃いひと時となりました。

日本福音連盟(JEF)報告

もう一つの聖化の交わり 福岡での総会/聖会

福岡教会 國重潔志



6月21日から22日にかけて、日本福音連盟(JEF)の年次総会と九州大会が開かれました。インマヌエルがJEFに加盟してまもなく10年になります。

通常ですと、連盟の加盟教団や加盟団体の代表者らが開催地に集まり、総会や聖会、またセミナーなどが2、3日間に渡って開催されます。

本来は、2020年に福岡で開催される予定でしたが、このコロナ禍のため、開催が見送られてきました。コロナ禍の状況に一定の落ち着きが見られるようになり、ようやく開催の運びとなりました。

ただ、依然コロナ禍の影響下です。総会については文書のやりとりによって行い、聖会やセミナーはインターネットを介して行われました。

大会のテーマは「交わりと宣教」でした。コロナ禍により交わりが大きく制限される中で、教会は交わりの大切さを改めて教えられました。神と自分との関係だけでなく、隣人との愛の関係も深まることによって健全なきよめの成長、宣教の充実が実現されることをコロナ禍で私たちは教えられました。これを糧とし、目を上げてコロナ禍を越えていく教会として歩んでいこうという考えから、この大会テーマが決まりました。

このテーマに沿って聖会では連盟理事長の江上環師(ナザレン教団)が説教をされました。セミナーでは福岡のきよめ派牧師らが発題し、聖書の角度から(横田法路師・日本イエス・キリスト教団)、神学的角度から(國重潔志)、また実際の現場での取り組みの報告(木内一夫師、ウエスレアン・ホーリネス教団、宇山宣師、日本イエス・キリスト教団、松尾献主師、K.G.K)がなされました。

コロナ禍によって、より強靱に、またしなやかに鍛えられた教会として進もうと互いに祈り合う幸いな2日間となりました。

国内教会局から

コロナ禍にある教会
小さな一歩を

「コロナ禍にある教会」をテーマに国内教会局コラムを書いて来ました。最近はずいぶん減りましたが、感染者数が減少傾向にあり、社会全体が徐々に通常の生活へと活動を再開しようとしています。



教団の営みも少しずつ動き始め、「とにキャン」は3年ぶりに対面で行うことになりました。もちろん今までと同じ形態ではできず、人数制限、感染対策を講じての開催になります。小さな一歩ですが、とにキャン初期から携わる者としては、主の御業が成就する一歩を踏み出せることに感謝です。

ウクライナ正教会がロシア正教会と関係断絶し、侵攻擁護の総主教を批判
リビウ発共同通信が、ウクライ

の最高位キリル総主教はプーチン大統領との関係が深く、ウクライナ侵攻を擁護。ウクライナ正教会側は、こうした姿勢を批判した上で、ロシアとウクライナに対し交渉による停戦を呼びかけた。



シリア派組織ヒズボラ連合が過半数割れしレバノン総選挙
カイロ発時事通信などによると、中東レバノンで5月15日に投票が行われた国民議会（一院制、定数128）選挙は5月17日、開票結果が公表され、イスラム教シリア派組織ヒズボラを中心とした政党連合が過半数を割り込んだ。

ナイジェリア南西部で武装集団がカトリック教会襲撃、21人死亡
ナイジェリア南西部オンド州オウオで6月5日、武装集団がカトリック教会を襲撃し、子どもを含む少なくとも21人が死亡した。地元当局が明らかにした。

教会の働きも同じではないでしょうか。これまでいろいろな働きが制限され、やりたいことができない。数年を過ごしました。しかし福音のためにいま「できる」小さな一歩を踏み出すなら、それは手ほどの雲となり、やがて恵みの雨を降らせ、大地を潤し、感謝と喜びの収穫を迎えることができるのです。

まず幹事はどの方に？ 時代、個性、背景バラバラ、旧新約の面の面々を仕切れる人とは？ ルカ10章の接待慣れたマルタ？ 私

はきつとマリヤと並ばされ、叱られる……。箴言31章のしっかりした主婦は？ 家事と仕事の両立

ボランティアもこなすスーパー主婦は、遊びの部分を省きがち……。ならばここはひとつ、使徒一六章

ティアティア市の紫布商人リディア。彼女はクールでハートフル、商いで磨きあげた力とセンスで上手に運んでくれることでしょうか。スタッフに、紫布の素敵なお揃い

着も。次に会場。ソロモンの宮殿は？ シェバの女王がお隣かもしれないと思うと、気後れ欠席者、続出。ロイヤル過ぎるのです！ ならば幹事のリディア宅？ 遠い船旅は交通費が……。みなさんに地中海をお見せしたいのは山々なのです。

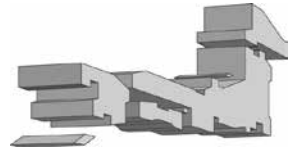


聖書の女子会

が。では、ここはひとつコミュニティにあるエリシヤの隠れ家（第二列王四章）をお借りしましょう。ベッド、デスク、ライトだけの簡素な部屋は、間違いなく快適。ただ、その裕福な奥方は、やせ我慢の人。自宅屋上が会場となる負担につぶされないか心配。エリシヤに直行、駆け込む人だから大丈夫ですかね。それより何よりここでの最大の問題は、この屋上の小さなプレハブ建てではこのスケールの女子会は圧倒的に狭い、ということ！ 仮想空間、メタバース？なら、拡張もできるのでしょうか。オンライン化が進み、バーチャルリアリティとか、メタバースとか言われる世界に、人々が引き込まれているようです。聖書信仰に立つ私たちは、聖霊に導かれ聖書の世界に引き込まれていく幸いを、知っています。視界を覆うゴーグル、ミーティングIDやパスワードも必要ありません。必要なのは、聖書への信仰、渇き、聖霊の導き。最後に、この女子会の日時について。禍重なる2022にあつては、急を要しますね。でもグループ分けが手つかずで。いっそ、オンライン？ リディアと要相談です。

（川村宏美）

国内教会局 スクエア



中部ブロックの 近況と祈りの課題

ブロック・アドバイザー

浜田 耕三

との関わりを模索しながら伝道の取り組みがなされています。続いて地域への良き証しをもって、救霊の働きが進められますようお祈りください。

◆北越教区

1月は大雪となりましたが、大きな被害はなく守られました。続いて豪雪地にあつて労しておられる先生方と各教会のためにお祈りください。

春の北越教区会はコロナ禍のためにZoomにて開催されましたが、秋には一泊での、研鑽と交わりを含んだ教区会を予定しています。

北越聖会は本年も新潟地区と北陸地区の合同で、10月23日にDVDを用いて各教会にて開催されます。祝福をお祈りください。

福井教会では昨年11月に、庭井要師をお迎えして、創立50周年記念礼拝が行われました。また小松教会では、新会堂献堂20周年記念礼拝を5月に開催し、山田磨師、公子師ご夫妻をお招きして、幸いな恵みの時が持たれました。なお金沢教会では本年中に会堂融資を完済する予定です。

コロナ禍による制約が徐々に解除される中、新たに「伝道礼拝」や「聖書に親しむ集い」が開始され、また「特集」が計画されるなど、各教会において伝道の働きが進められており、受洗者も起こされています。続いて伝道の取り組みのためにお祈りください。

コロナ禍にあつても、各教会において真実な伝道の働きが継続され、トラクト配布からも新来会者が増えられています。また中止となっていた営みが徐々に再開され、

◆静岡教区

今年度には二教会において主任牧師の交代があり、前里達実師(藤枝)、山本和雄師(磐田)がそれぞれ責任を担っておられます。先生方を始め各教会、またご高齢の器方のためにお祈りください。

5月8日には教区青年大会が二年ぶりに(リモートにて)開催され、講師の細田恒太郎師より幸いな聖言の恵みに与り、良き交わりの時を持つことがゆるされました。また静岡聖会が11月3日に予定されています(講師||岩上祝仁師)。開催形態については、7月の聖会準備会にて検討します。

清水教会では、19年より開始した「創立60周年感謝プロジェクト」が恵みのうちに完了しました。また磐田教会では借用地だった土地(会堂敷地、駐車場)を購入しました。なお島田教会では新会堂建設に向けて取り組んでいます。

コロナ禍にあつても、各教会において真実な伝道の働きが継続され、トラクト配布からも新来会者が増えられています。また中止となっていた営みが徐々に再開され、

◆中京教区

4月には春の教区会が対面式にて開催され、各教会の課題のためにも祈る時が持たれました。

今年度も教区4教会における交歓講壇が計画され(7月、11月、来年2月)、また教区報告会も予定されています(11月、来年1月)。お互いの交わりを深めつつ、協力体制をもって教区、また各教会の働きが進められています。

9月18日には中京聖会が平瀬義樹師を講師として開催されます。今回も名古屋教会を起点として、各教会をZoomで繋いでの聖会となります。なお6月25、26日には東海聖会(講師||岡田仰師)が一麦教会を会場にオンライン併用にて開催され、10月20日には東海聖化大会(講師||ケビン・ブラウン師)が予定されています。

四日市教会では昨年の秋より、地域の牧師会による「子ども食堂」を毎月開催しています。また教区それぞれの教会においても、地域

「とにキャン2022」ご案内 3年振りに対面で 会場はベテルハウス 再開への第一歩

中高生キャンプ委員 峯尾仰生

とにキャン実行委員会は「今年こそは対面プログラムをぜひ検討してほしい」との多数の声を受け、制限の中にあつて何ができるのだろうかと検討し続けました。その結果、神学院のご協力をいただき、黙食や原則一人一部屋での宿泊、人数制限等の感染対策ガイドラインを厳守した対面開催とオンライン配信のハイブリッド形式で今年とにキャンを実施することが可能となりました。感謝致します!日時||8月9日(火)~11日(木)場所||聖宣神学院(横浜)講師||鈴木雅也先生(Mr. S. Suzuki) つながろう、のりこえよう、形態||対面(40人以内) ||オンライン(集会のみ配信) 対面では屋外での楽しいチーム対抗ゲームやキャンプファイアー、美味しい食事があり、オンラインでは特別抽選会やオリジナルTシャツのプレゼントがあります。なお、今年には「とにキャン公式LINE」を用いて、対面の様子を写真や動画でアップし、「つながり」を大切にします。詳細な情報はチラシに掲載してあります。

IWF理事会報告

IWFはまもなく 70周年を迎えます

IWF 理事 田辺寿雄

5月31日(火)午後1時半より、IWF春の理事会がオンラインで行われました。インマヌエルから岩上祝仁師、大兼久芳規師、林正弘師と田辺、ワイルド・ゴスペル・ミッション(WGM)からブランドン・久芳師とホーリー・ミュールハイゼン師、グローバル・パートナーズ(GP)からロビン&陽子・ホワイト師夫妻が出席をされました。また新しくGPの太平洋・東南アジア教区長になられたシェリー・フロイド師が初めて出席されました。彼女とご主人は30年以上パプア・ニューギニアで宣教師としてご奉仕をしておられます。岩上師によるメッセージから始まり、日本語と少しの英語も交えての自己紹介の時を持ち、その後各宣教師から英語または日本語で近況報告がなされました。その中で、ザック&知子・マツ師ご夫妻のお手紙が紹介され、彼らがWGMの宣教師を退職されることが発表されました。 1952年にスタートしたIWFの協力関係も70年となりますが、70周年を記念したオンラインの集会を今年の秋以降に持つことも決まりました。

巻頭言

すべての人にわたしの霊を注ぐ



世界宣教局
野田 禎

二千年前、エルサレムのある家の二階の部屋で祈りに祈っていた弟子たちに聖霊が下られ、弟子たちは聖霊の力を受け、キリストの証人として力強く証しをしました。



広げた翼

Immanuel His Wings

Department of World Missions

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

世界宣教局

待ち望んでいた聖霊が与えられたことを知った弟子たちは、祭りのために世界中から来ていた人々の様々な言葉で福音を語り始めたのです。喜びに満たされ夢中で語ることに人々は心を開き、福音を受け入れられました。「わたしの証人」となっていた最初の日でした。インマヌエルの諸教会も御霊に満たされた聖徒たちによって、激しい戦いの中、教会が設立されていきました。また私たちの群は聖霊に導かれ、海外に宣教師と家族を送っています。さて、冒頭のタイトルは使徒の働き第二章17節です。「すべての人にわたしの霊を注ぐ」とあるように、そこにいたクリスチャンは聖霊を受けました。聖霊のことは聞

いた事も無かったクリスチャンもやがて聖霊を受けて行きます。聖霊はクリスチャンでない人たちにも、救いを理解する力、求める力を与えてくださいました。

ペンテコステの日に、「神の大きなみわざを語っている」と気づいた人たちが、「私たちはどうしたらよいでしょう」とさらに求め、何とその日に三千人ほどの人が洗礼を受け仲間に加えられて行ったのです。今も聖霊は、まだ神を知らない方々にも働いてくださいます。

1739年3月31日、ジョン・ウエスレーはイギリスのブリストルで、生まれて初めて野外説教をしました。彼は、荘厳な教会以外で福音を語ることにすさまじい抵抗を感じていましたが、友人のホイトフィールドに導かれ、野外で説教をしました。するとそこにいた三千人の人々、顔を真っ黒にした仕事上りの炭鉱夫たちも、目を輝かせ涙を流しながら回心をして行きました。

「世界は我が教区」とウエスレーは語りました。その言葉のとおり、福音がイギリスから世界に広がって行きました。

聖霊は大いなる方です、クリスチャンの心を聖め、キリストの証人に、そして人々の心を救いへと向けさせてくださいます。

聖霊により頼み、期待し、世界の果てにまで福音が伝えられるように、祈って行きましょう。



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子*2022年6月10日

「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい。」(マルコ一六章15節)

1月から始まった第2学期のクラス「預言書」も今月で締め括りを迎えることができました。9名の学生とともに聖書のみことばとそのメッセージに取り組むことが許され、良い学びをすることができました。学生たちとのオンラインでのコミュニケーションはなかなか難しい部分もありましたが、一人一人が与えられた課題をこなし、この科目を修了し、神様の憐れみによってこのクラスを終えることができました。感謝します。常喜が教えた学生たちは3年生です。ので、いよいよ来年度は卒業に向けて準備段階に入ります。彼らが最後まで主の召しに応え、学びと訓練に真剣に取り組んで行くことができるようにお祈りください。卒業式が対面で催されることとなり、会場作り、キャンパス内の清掃、その他の準備のために卒業

生たちが1週間前に学校に戻ってきました。2年振りの同じ釜の飯をともした仲間との再会を喜び、インターンシップで経験した武勇伝(?)を分かち合い、励まし合い、折り合うひと時となりました。

学校より依頼があり、常喜は2名の職員と一緒に3名の卒業生それぞれにインタビューすることになりました。インターンシップ期間中(5か月)の体験を中心に、毎日の生活、主任牧師との関係、奉仕(準備、実践、結実)、教会との関係、問題・課題、卒業にあたり学校への要求について、学生たちに質問しました。学生たちが実習を通して得たたくさんのお礼からのお恵みや祝福とチャレンジを聞き、そして何よりも一人ひとりが実習を通してその召命を確信したことに感動し、神様がこの学生たちとともに働いてくださったことを神様に感謝するとともに、その栄光を崇めました。学生たちからの要求として上がっていたのは、職員と学生たちとの関係をもう少し深めたかったというものでした。今の学生たちはコミュニケーションを苦手とし、自分のことを表現しづらいので、職員がメインターとして学生たちの声に耳を傾けてもらいたいと話してくれました。インタービューを終えてから、このことについてこれからの課題として取り組んでいくことを他の職員たちと話しました。常喜が準備した学生たちへの質問の一つ、「実習期間中、世界宣



教について考えたか？教会が世界宣教に携わるように励ましたか？また、そのためにどんなことをしたか？」という問いに、残念ながらどの学生も答えはノーでした。このことについても職員と話し合い、世界宣教についても少し考え、どのように教会の活動として取り組んでいくのか、学校全体で取り組んでいくこととなりました。現在、学校では世界宣教に関わる科目がないのも一つの課題となっています。

5月20日、第63回卒業式が行われました。卒業生12名（宗教教育学部3名、神学部9名）を主の畑に送ることができました。この卒業式にあたって、以前より進められていたチャペルの増築、改装工事が各教区の有志の牧師と信徒方

により急ピッチで進められ、何とか卒業式を行うことできるまでの工事を終えることができました。また、教育庁からのプロトコルに従い環境を整え、出席人数も制限され、卒業生一人に対し一人の付き添いが許されました。とは言え、色々と関係者が萃ぶる式に出席し、準備した座席は足りなくなるほど大勢の出席者が与えられ、2年振りの対面での卒業式は賑やかに執り行われました。卒業式のテーマは「コロナ後のしなやかな宣教へのチャレンジ」で、ロデル・パタクシル先生より祝辞説教を頂きました。卒業した学生たち一人一人が主の恵みの器として用いられ、地域の教会に、また人々に祝福が注がれる良い管となれるようにお祈りください。

子どもたちの教育について長らく検討していましたが、私たちは6月に宣教拠点をロサリスからマニラに移すことになりました。



CAMBODIA

カンボジア

葛田緑乃*2022年6月4日

「昼はこの雲の柱が、夜はこの火の柱が、民の前から離れる事はなかった」(出エジプト13章22節)

「私が暁の翼を駆って海の果てに住んでもそこでもあなたの御手が私を導き、あなたの右の御手が私を捉えます。」(詩篇一二八、一三九篇抜粋)

この御報告を認めております今日はペンテコステ礼拝を前にした金曜日、教会を誕生させ、成長させておられる御聖霊が、私自らを含めた一人一人の信仰者の心にご内住くださっている事実が更に確かな御業を通して証しされますようにと祈りつつ7月の宣教報告を認めております。

毎月末の恒例STを通してのV師、G師との個別会合はそれぞれ祝福のひと時でした。お祈りいただきましたV師のお母様は再入院、再退院を繰り返しながらも支えられておられます。

しかし、今度は別の課題がV師から報告されました。先月まで続いた水不足問題は雨期に入り、毎日雨が降り、夜になると蛇口から水が購入したタンクに貯まるので運搬の労はなくなりましたが、今度はなんと建設後3年目にして、建物の一階、礼拝堂としているロビーのタイル張りの床が盛り上がり沈んだり、床に割れ目が出てしまいました。

感謝な事は、前日V師が祈ってスタートした若い求道中のカップル6組を迎えた集會が開かれ、3組の御夫婦が主を受け入れまし

た。「床が壊れたのが集會の翌日だったことは主の御助けでした」と感謝しておられました。

もう一つ驚きの報告です。2つの教会を1つにしてV師の牧会に託したKCCの礼拝所の解決としてG師の借りている家を当面集會場とする事にして大家さんの了解を得て、コンクリートで仕切られた一階の部屋(30席収納)の壁をぶち抜き、改造工事を開始。もちろん本職によるのでなく、マーク宣教師と米国人の友人が2人で、重たい木槌で叩き崩してもう30席分の部屋とするよう改築しているという事です。もしFacebookでGreg Fernandezを検索すると2人が壁を壊している動画が見られますので興味のある方は開いて見てくださり、お祈りいただければ感謝です。

G師とのSTを締め括ろうとした所にM師からの電話が入り、投獄中のパウロ兄が別の刑務所に移される事になり、彼は現在の場所から動きたくないで祈って欲しいとの連絡が入った旨、伝えられました。3年間の服役期間が過ぎ、あと4年の服役期間、彼がヨセフのように神様の御心の時まで信仰が支えられますよう、お祈りという道を通して訪問を(マタイ二五・36参照)繁くしていただければ幸いです。それも宣教活動の一端とされる事と信じます。ぜひ一緒に働ける事に加わっていただけましたら幸いです。

「コピッド イズ バック? (新型ウイルス戻って来たの?)」マスクの着用どころか携帯すらしていなかった倉庫スタッフがいたので、その主任さんにひと声掛けてもらった時の反応です。5月初旬に周辺地域の3家族が感染している事が分かり、自宅待機となりました。とは言え、瞬時に全員に周知、とはいかないようです。単発的なものか、次の「波」が来たのか、しばらく様子を見ていたが、年末年始の時のような爆発的な勢いにはならず感謝です。ただ、しばらく閉鎖していた隔離病棟が再開され、その影響で増えたはずのスタッフがいない状態となりました。久しぶりに緊急手術が必要な新型ウイルス検査陽性の患者さんの手術も入りました。

さて、最後の2週間、と思った日曜の夜に主任から電話が入り、「実は週末に手術をして、2週間病欠になったのでよろしく」とのこと。数日後に締め切りの超過動



KENYA

ケニア・テヌウェク

葛田就子*2022年6月1日

務報告の書類と、次月の勤務表の作成を頼まれました。

日本で勤務していた時の終電以降帰宅、始発出勤を思い出しつつ仕上げた超過勤務の書類を人事に持って行ったところ、「今日からコンピュータでできるようにするはずなので、紙の書類は一切受け取らないように」という通達がありました。」と受理されませんでした。週末試してもらって「こんなエラーが画面に出ました」という数例の証拠写真や麻酔科と人事の話し合い等を受け、週明けに今回までの手書きの分は受け取ってもらうことになり、感謝でした。勤務表作成は、最終勤務の後に2週間近くいただいていた荷造り用休暇の前半1週間に食い込んでしまいました。

その次の週、スタッフも忙しい中、短く送別の時を工面して下さり、暖かい言葉をかけて下さいました。いただいたスピーチに共通していた事の1つが、「自分たちを巻き込んでくれる、一緒に仕事をしてくれる、意見を聞いてくれる」というものでした。新型ウイルスの予防対策で人との関わりが希薄になりがちなか、スタッフとの関わりが許されたことを感謝し、彼らとの関わりや支え無しには全うできなかったことを思わせられました。

ようやく荷造りになり、火曜の朝5時、出発の迎えのドライバーさんが来るまでにたくさんの方々の助けをいただいて、まずナイロ

ビに向けて出発しました。ナイロビでの事前検査を受け、マラリア予防薬の購入と少しの買い物をして、ゲストハウスに着。出発の週にも、テヌウェク周辺の感染例が報告されていますが、私自身の新型ウイルス検査の結果は陰性で感謝でした。出入国する直前に必要なそれらの結果を、出国前必要なケニア側のコンピュータサイト、入国前に必要な日本側のコンピュータサイト等にそれぞれ入力し、漸く書類上の準備が整ったのでは、ということになります。



TAIWAN
台湾
久保光彦・せきな * 2022年6月7日

5月に入り、台湾国内での新型コロナウイルスの感染者数は4月よりも急激に増加を続け、北部のみならず台中や台南、高雄など、南部の都市でも多くの感染者が出るようになってきました。今回の波に関して言うならば、これまでではなかった現象として、台中教会関係者の中にも、周りに感染者が出た、という旨の

話を聞くことが非常に多く感じられるということ。月末にかけては、1日の陽性者数が10万人に届くという数字が続き、単純に計算して人口の10%が感染者になるという勢いです。けれども、ウイルスが弱毒化しているフェーズと考えられる時期であり、感染者数は急激な伸びを見せていますが、中・重度の症状を示す方はまれで、そのほとんどが無症状、軽症と言われています。

月末ごろからは、私たちが住んでいる台中市でも感染者が増えていることから、高校以下の学校がしばらくオンラインになっていきます。教会も様々な状況を鑑みて、月末からしばらくの間すべての集会をオンラインで行っています。昨年の5月18日に台湾に赴任して、早いもので一年が経ちます。昨年私たちが赴任した時は、今よりも厳しい警戒が出されようとしている中でした。その時にも、教会の諸集会がオンラインで行われていました。ですので、実際に教会の皆さんと顔合わせをできるようになるまでにはしばらく時間がかかりました。それからだんだんと台湾国内での感染状況は（厳しい入国制限などの効果もあり）改善の方向に進んでいました。1年目を迎えるころにまたオンラインになってしまったことは残念ではありますが、教会の方々も理解をもって協力してくださっていることは感謝です。1日も早く感染が収まり、対面の集会へと支障なく

戻れるようにお祈りいただければ感謝です。



■会計報告5月分
宣教献金 一、二八二、六九一円
月平均 一、四五二、一九〇円

お祈りの課題

フィリピン (豊田)

◆卒業した学生たちの教会での働きのために。夏休みに入った学生たちの霊肉が守られるように

◆聖書大学では新年度(2022年8月)から対面授業を計画中、そのための経済的が必要が満たされ、また教育庁が提示された対面授業を始めるための条件を満たすために、準備が滞りなく進められるように

◆事故、事件、怪我、過ち、災害、病气、疫病から家族が守られるように。マニラでの新しい生活に適應できるように

カンボジア (高田緑乃)

◆引き続き伝道者、宣教師の霊的一致、特に地方にて開拓段階の教会に救霊の御業が進むように

◆フノンペン市になされている自給自足の教会建設が御霊により力強く前進し、救霊に、回心者の弟子訓練にと結果が見られるように

◆ヴァンティ師の御両親・御家族が1日も早く主を心に迎え、キリストの弟子とされ、またヴァンティ師ご一家の働きが他の伝道者の模範として建上げられるように

◆ケニア (高田就子)
◆出国前の準備と検査結果陰性の感謝

◆病院の働きが、福音の深化と伝達のために用いられるように

◆麻酔科、整形外科、主任室等の働き人(ルカ10の2)が起これるように

台湾 (久保)

◆新型コロナウイルスの感染者数が減少に転じるように。社会・経済への影響が最低限で留められるように

◆教会の信徒、関係者、牧師家族の健康が祝されるように

◆二年目に入る働きが祝されるように

香港 (鹿島)

◆6月5日に創立13周年感謝礼拝が、対面と音声礼拝で捧げられたことと簡単なお祝いが許されたことへの感謝

◆7月1日に持たれる25回目の中国返還記念行事のために

◆近隣への人国マルチビザが速やかに与えられるように

◆お隣では以前よりも大きな圧力がかかっています。その中でも良き働きが続けられるように

聖宣神学院報



Immanuel Bible Training College

主の大庭に住む幸い

院長 ● 林 正弘

「幸いなことよ あなたが選ぶ近寄せられた人 あなたの家庭に住む人は。私たちは あなたの家の良いもの あなたの宮の聖なるもので満ち足りります。」

(詩篇六五・4)

先日のクラスで神の遍在について学びました。遍在とは「神はどこにでもおられる」という意味です。しかし、それとともに「神はある所には特別な意味合いで存在される」という言葉が加えられています。主の宮は、特別な意味合いで神が存在される場所に違いありません。そこに選ばれて近寄せ

られるのは実に幸いなことです。良いもの、聖なるもので満ち足りるからです。

私たちがどこにいたとしても、神さまはそこにいられます。そしてそれは幸いなことです。しかし、特別な意味合いで神さまがおられる場所に私たちが入っていたい

ているとするならば、さらに幸いです。そして、私たちが主イエスによる救いにあずかり神の子とされたいことによつて、私たちは現にその特別に幸いな場所に入れていただいています。

物理的にも神さまが特別に存在されると考えられる場所があります。

す。教会、すなわち信仰者がともに礼拝をささげる場所がそれです。コロナ禍で集まるのが制限される経験をして、その場所の大切さに改めて気づいたのではないのでしょうか。神学院も神さまが特別に存在しておられる場所です。多くの聖徒の祈りと献げものによつて取得され、拡張され、整備され続けてきた場所であり、何よりも主の召しを受けた器方を受け入れ送り出してきた場所です。この主の大庭に、選ばれ近寄せられて住むことができる人は幸いです。私たちは、神さまから選ばれ、神さまとともに歩むことができるように導かれたことを感謝したいと思います。また、特別な意味で神さまがおられる場所を大切に祈り、祝福を祈りたいと思います。



今年もアジサイがみごとに咲きました

神学エッセー

どこに天幕を張るのか



宮崎聖輝

「主はアブラムに言われた。さあ、目を上げて、見渡しなさい。」
「そこでアブラムは天幕を移してヘbronにあるマムレの檜の木の下にきて住んだ。」
(創世記二二章14節・18節)

千葉県内房には多くのキャンプ場施設があります。木更津は都心からもアクセスが良く、高速のアクアラインを渡れば、すぐに自然豊かなキャンプ場にたどり着けます。コロナ禍もあってキャンプが注目されましたが、私たち家族も一度、テント泊をしたことがあります。キャンプ場に到着し、早速レンタルしたテントを設置しようとしたのですが、思いの外、苦労しました。なにせレンタルなので、まず説明書を読むところから始めなければなりません。骨組みにシートをかぶせ、いよいよ設置場所の選定ですが、場所設定と向きには迷いました。結局、ある場所に設置したのですが、実はゴロゴロした石ころの上に建ててしまっ

たのです。就寝時に苦労したのは言うまでもありません。「どこに

テントを張るのか」は、キャンプ泊において重要な要素です。

聖書には「どこにテント(天幕)を張るのか」で対象的な行動をとった二人の人物が出てきます。創世記二二章のアブラムとロトです。アブラムは、甥のロトと別れて暮らさなければならなくなったとき、「あなたが左なら私は右に、あなたが右なら私は左に」とロトに選択権を譲ります。ロトは、自分の目で判断し「目を上げて、ヨルダンの低地全体を」選びました。彼が選んだ場所、そこはソドムの近くでした。結局、ロトとその家族はいつの間にかソドムに移住して、大変な試練を通らされます。一方、アブラムは対照的です。自分の目にかなう場所ではなく、主の目にかなう場所に移り、天幕の目にかなう場所です。そこに天幕を張り、祭壇を築くアブラム。どちらの選択が祝福の旅路となるのかは一目瞭然です。

「どこに天幕を張るのか。」これは私たち人生の旅路においても重要な問いかけではないでしょうか。進路や就職、結婚、老後の生活など、次から次へと「どこに天幕を張るのか」が問われ続けます。その時、自分の目にかなう場所ではなく、アブラムのように主の視点を考慮した、主の目にかなう選択をさせていただきましょう。主が示される場所に移動し、天幕を張り、感謝の壇を築く。これこそが信仰者の旅路です。

◆前期の学びの中で

神さまのなさる

ことは想定外

聴講生 石川牧子

今年度は夫も娘も最終学年。インターンの学びに入り、我が家の生活スタイルがガラリと変わった。娘は幼稚園の憧れの年長さん。一番お姉さんの学年になって多くの変化に緊張の日々。変わらないのは聴講生の私。新年度に入る前は「一人くらい安定の位置必要だね」と思っていたのだが、日を決めるにつれて、一番安定を失っていくのは……私ではないか！

今年度、私は幼稚園の役員になった。昔ながらの少人数の園だが、年長の役員の数は多い。ならない条件が幾つもある中、私は見事になる条件が揃った！ コロナ禍で役員はほぼ機能していなかったが、今年からはグッと再開の流れ。毎週のように幼稚園に出掛けている。この頻度は皆想定外だった。役員の働きが始まっていく中で不安が出てきた。授業との兼ね合いだ。この出勤頻度で調整可能なのだろうか。被ってしまった日はどうしよう……。一気に不安感が増していく。安定の位置にいるなんていうのはどこ吹く風。担当の仕事もあれば、役員みんなで召

集がかかることもある。そしてピッチは訪れた。授業でプレゼンのある日に、自分の重要な役割のある役員の仕事が終わってしまったのである。困った！ まだ始動したばかりで信頼関係もできていない中でどう調整すべきか。一方授業も、自分以外の神学生のプレゼンもあり、自分のだけの事ではない。色々考えていけばいく程考えは迷宮入り。思考は、本質からずれて、自分がどう思われてしまうか、どれくらい迷惑をかけてしまうかという不安とおそれ。気がつけば、サタンの囁きが自分の心を占めていく。そしていよいよ来週がプレゼンという授業の日、正直に役員のために遅刻をしなくてはいけないことを先生にお伝えした。すると、「バタバタして発表するのは大変だから」と言われて、私だけ一週間日程をずらしてくださったのだ。実際当日は、私がお二人のプレゼンが聞けるようクラスの内容を工夫し、帰ってきたらプレゼンが始まるようにとまでご配慮くださった。一方役員の方は、自分が学びをしている状況を皆に知って頂き、実際当日は私が役目を果たす時間を皆が快く各自の犠牲を払って工夫してくださいました。私がクリスチャンで、夫も牧師を目指していることも多くの方に知って頂く機会になった。当日「勉強頑張ってるね」と笑顔で幼稚園から送り出され、教室の戸を開くと、「お帰りなさい。お疲れさま」と温かく労いと共に迎えて頂いた。

自分の抱いていた恐れや不安の大きさと、実際に神様が備えて下さっていたものの大きさをスッカリ見せられた。ちゃんと神様は知って下さっていたのだ。

「わたしを呼べ。そうすれば、わたしはあなたに答え、あなたが知らない、理解を超えた大いなることを、あなたに告げよう。」(エレミヤ三三・3)

神学院後援会から

北日本ブロックで世話人会開催
聖宣神学院を
祈りをもって応援します

BTC 後援会 池田光重

私たちの教団は創設の段階から牧師が中心となり、熱心な信徒が背後に在って支える形で拡大し、

成長してきた歴史を持っているかと思えます。

このような背景の中で、BTC入学者が途絶えることに危機感を覚えた数人の牧師によって、教団本部で月1回の「BTC祈り会」が始められました。そのような経緯からBTC後援会は創設されましたが、今は、教団の外郭団体として信徒が表に立ち、牧師が背後に在って支える形となっています。「BTC後援会」も創立6年目を迎え、各地域教会から世話人の方々が興され、BTCと教会の橋渡し役として尊い活動を担ってくださっております。献身者が興されるため、BTCの運営や活動のため、折に触れて祈りとともに献金のサポートも継続していただき感謝いたします。

今年秋と来年春の神学生募集に志願者がいない場合、BTCキャンパスで対面授業を受ける神学生はゼロとなる見込みとのこと。現在オンラインで学ばれている方も3名おられますが、対面で授業を受けられる神学生がおられない



キャンパスはまさに森そのものです

ことには危機感を覚えます。私見ではありますが、喜びと充実感に満たされて語る牧者に接した時、聴く人たちは「自分の人生を、説教者のような喜びと充実感を持ったものに変えて行きたい。」と願うのではないかと思います。真に召命を受けて献身される兄弟の起こされる事を祈る者です。

これまでBTC後援会世話人の方々の情報交換及び交流を目的に各ブロック毎に世話人会を開催してきましたが、7月23日(土)、北日本ブロック(北海道、東北、北関東)世話人会を予定しております。前回の南日本ブロック世話人会はNOOJでの開催でしたが、今回はホテルハウスを会場に、NOOJと併用したハイブリッド形式での開催を予定しております。コロナ禍はまだ終焉に至っておりませんが、行動自粛も緩和されてきております。ワクチン接種済みの方も80%を超えており、通常の予防措置をとれば感染の不安は減少しているかと思われれます。既に世話人の方々には教会を通じてご案内がなされておりますが、全員が参加され、幸いな主に在る交わりの時が持てますよう、お祈りいただきたくお願い致します。

また、この夏、久々にもたれるBTCでの、とにキャンや夏フェスタにも、後援会として何等かのお手伝いができたらと願っております。このことも覚えて、人的にも財的にも、お祈りとご協力をよろしくお願いいたします。

いま神学院では……
プレイズ&ワーシップクラス
教師●田辺宣恵



今学期からプレイズ&ワーシップのクラスを担当しています。学生からリクエスト曲を持ち寄って、選んだ理由など分かち合ったり、新しい歌を覚えたり、賛美歌の背景のエピソードを知って、その賛美をより深く味わったりしています。また、チャペルをクラスでデザインして実際にそれにそって集会を進めたりします。とにかく、このクラスでは実際に卒業して、教会で奉仕をする時に役に立つような実践的な側面を体験しながら学ぶコースになっています。宣教師をしていた頃、ケニアハイランド聖書大学の時も、カボソンの牧師大学でも、教会音楽や礼拝学やコワイアのクラスを教えたことがあり、その経験も参考にしながらコースを組み立てています。特に、カボソンで教えていた時ある発見をしました。クラスをグループに分けて、チャペルをそれぞれに与えられたテーマに従って、デザインし、プロデュースしてリードするという課題を渡しました。ところが、どんなテーマを与えても、ほぼみんな同じ内容で、順番

も代り映えしないものになりました。どうしてそうなるのかというと、自分が体験した礼拝経験の種類がとて限られているからでした。ですから、企画会議でもアイデアが浮かばず、みんなほぼ同じ教団のためか、礼拝順序、内容、特別音楽など同じような発想から抜け出せませんでした。私は幸い、留学先でいろんな礼拝を体験する機会が与えられ、新鮮で感動を多く味わいました。また、宣教師という特権で、インマヌエルの中でもたくさんさんの教会に行きましたし、他教団の礼拝、海外の礼拝を経験することも多くありました。音楽もしかりで、いろんな教会音楽を体験することによって、よりダイナミックに神様と交流し、新鮮で考えさせられる、成長を促す礼拝を体験することが許されました。ぜひ卒業してからも、礼拝の意味や実践を考えることによって、教員が常に生かされていく礼拝づくりができるようにと願っていました。それで、その問題を解消するため、すべてのグループのすべての企画会議に私がアドバイザーで入ることで、寸劇だったり、パントマイムだったり、彼らが到底思いつかないようなことを必ず1つずつ入れることを条件にしました。そのチャペルは伝説となり、全校生徒が楽しみにするチャペルとなりました。現在のクラスもかなり生徒は戸惑っていると思いますが、楽しくクラスを進めています。

同窓生の近況

64期生
京都西教会●大塚千穂子



京都伏見・京都西教会に遭わされ、西教会に住み、西教会のご奉仕を主にして6年目となります。コロナ禍の2年、教会を閉めた時期があり、メールでのショートメッセージと祈りの時を兄弟姉妹と持つように示されました。「神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。」(ピリピ二章13節) 途中、都合で休止しましたが、教会の方の病のために皆で心一つになって「絶えず祈る」ように促され、再開し、木曜日に「祈りの夕べ」を持っています。兄弟姉妹とそれぞれの場所で、それぞれの時間にも心こぼしを心にとともに祈る時、お一人お一人のお顔が思い浮かび、主にある家族である恵みをいただきます。会う事がままならないからこそ、お互いを思い、同じことばに心を寄せ、お互いのために、また、それぞれの家族のために祈る恵みをいただき、感謝です。「絶えず祈りなさい。」のみことばをしつかりと握りしめ、続けていけますようにと祈っております。

神学院スタッフ…恵みの想起

チャペルの時間は

寮監 田辺寿雄

毎週火曜日と金曜日のチャペルを、いつも楽しみにしています。本館一階奥の小チャペル(以前は教室2)に、なるべく一番乗りします。授業を終えた神学生の方が「こんにちは」と一人ずつ入って来られ、私も「こんにちは」と挨拶します。

今学期は、神学生と田中進先生、林正弘院長と田辺が当務を担当。院長や田中先生はいつもリラックスした雰囲気です。メッセを語ってくださり、会衆は笑ったり、うんうん頷いたり、温かな一体感に包まれます。神学生方も負けていません。自然体で語られるメッセについて引き込まれ、恵まれます。最後は「ありがとうございました。」で終わるのもありがたいです。私の大好きな時間になりました。

学苑だより



- 6月。今年もキャンパス内でアジサイの花がきれいに咲きました。
- 6月6日(月)夜、BTC祈り会がオンラインで開催されました。
- 6月14日(火)、深川教会の男性信徒3名がキャンパス内の清掃作業などのご奉仕をしてくださいました。心より感謝いたします。
- 6月24日(金)のチャペルでは、今学期新しく始まった「プレイズ&ワーシップ」のクラスが賛美、スキット、メッセなどを担当しました。
- 7月いっぱいまで前期が終わりです。各クラスと神学生方の学びの祝福のために続けてお祈りください。
- 教育局青少年部と協力し、8月14日(日)〜15日(月)に「BTC夏のフェスタ2022」を開催することになりました。詳細は6月末に送付されるチラシをご覧ください。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。5月の会計報告をさせていただきます。

5月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥1,500,000

教会員による	
「神学院サポート献金」	¥721,060
教会団体による「神学院献金」	¥514,400
合計	¥1,235,460
その他の献金(一時・特別)	¥161,000

・振替：00230-0-10138

公報

本部通達

「私をあわれんでください。私
のたましいは、あなたに身を避け
ていますから。」(詩篇五七・1)
本格的な夏を迎えました。今月
末から秋にかけては各教区聖会
とにキャンが開催されます。

■本部

△会議) 25日(月) ~ 26日(火)
教団運営委員会

■国内教会局

▽引退、休養等の意向のある牧師
は、8月末までにブロックアドバ
イザーにお申し出ください。
(会議)

8日(金) 宣教研究委員会
22日(金) 国内教会局実務会

*各地域の聖会情報(日付順)
◇東北聖会(南北合同 Zoom)
7月30日(土) ~ 7月31日(日)

講師|| 工藤弘雄師
◇四国聖会 中止

◇林間聖会 (YouTube 配信)
8月11日(木/祝)

講師|| 大兼久芳規師
◇九州聖会 (YouTube 配信)
8月21日(日)

会場|| 久留米・福岡教会(配信)
講師|| 岩上祝仁師
◇中京聖会 (Zoom 聖会)
9月18日(日)

講師|| 平瀬義樹師
◇ポプラ聖会(北海道)
9月23日(金) 午前・午後

会場|| 札幌教会
講師|| 岡田順一師(ウエスレアン・
ホーリネス代表)
◇北関東聖会
10月10日(月/祝)

会場|| スエック(講堂)
講師|| 細田恒太郎師
◇関西聖会(対面・配信)
10月10日(月/祝)

会場|| 大阪リバーサイドホテル
講師|| 岩上祝仁師
◇中国聖会 (YouTube 配信)
10月10日(月/祝)

会場|| 広島教会
講師|| 阪下謙師
◇北越聖会 (DVD 聖会)
10月23日(日)

会場|| 各教会で開催
講師|| 浜田耕三師
◇東関東聖会
11月3日(木/祝)

会場|| 市川サンシティ(予定)
講師|| 田辺寿雄師
◇静岡聖会
11月3日(木/祝)

講師|| 岩上祝仁師
形態|| 聖会準備会にて検討
◇沖縄聖会
11月3日(木/祝)

会場|| 那覇教会
講師|| 葛田聡毅師
■世界宣教局
▽6月2日、運営委員会が開かれ
ました。7月14日午後、拡大運営
委員会の予定です。

▽葛田就子宣教師は、ケニアでの
第6期の働きを締めくくられ、6
月16日無事帰国されました。8月

より巡回を開始します。対面・オ
ンラインどちらもOKです。申込
は神栖教会の葛田敬子先生まで。
▽フィリピン豊田常宣宣教師ご
一家は6月24日、ロサリスよりマ
ニラへ引っ越しをされました。

Asia-Pacific Nazarene
Theological Seminary,
Ortigas Avenue Extension
Kavajing,
Taytay 1920 Rizal, Philippines

《IWF 関連》
▽IWF 理事会が5月31日、オン
ラインで開催されました。

▽WGM のザック&知子・マツツ
宣教師は5月末をもってWGM 宣
教師を退職されました。日本にお
けるこれまでのご奉仕に心から感
謝いたします。アメリカでの生活
とご奉仕のためにお祈りください。

■教育局
〈教育部・生涯学習課〉
▽若手牧師研修会
日時|| 7月5日(火) 午後1時半
~ 4時 (Zoom)

テーマ|| 「召しをもう一度考える
〜牧師の危機を支える召命理解」
発題1|| 「聖書は召命をどのよう
なものと言っているでしょうか」
(國重潔志師)

発題2|| 「これまでの奉仕をふり
返ってのお証し」(梅田登志枝師、
古川恵子師)
〈教育部・信徒教育課〉
▽信徒伝道者スクーリング
日時|| 9月2日(金) (Zoom オ
ンライン開催)
講師|| 佐藤信行師

▽信徒向け聖書講座(無料、各教
会で自由に利用可)
内容|| 「使徒の働き」の学び(第
19回目まで公開中)
講師|| 岩上敬人師(丁E A 総主事)
▽過去の信徒聖書講座
内容|| 救いの確立(熊谷邦男師)
第4回まで公開中。(聖書講座は
教育局HP から常時視聴可)
〈青少年部・青年課〉
▽ビルド(月に一回、オンライン
開催) *テーマに
基づいて語り合う
「トークビルド」と
「聖書を学ぶビル
ド」を隔月で開催中
▽第8回YSBリトリート
日時|| 7月3日(日) オンライン
講師|| 田辺寿雄師
テーマ|| 「神のデザイン」私の中
の〇〇発見」

▽各地区の青年大会
九州青年大会 9月18日(日) に
開催予定
〈青少年部・中高生課〉
▽第15回とにキャン2022
日時|| 8月9日(水) ~ 11日(木)
講師|| 鈴木雅也師 (M.D.A.)
テーマ|| 「LINE」つながろう、
のりこえよう、
形態|| 聖宣神学院を会場に、対面
を基本としての開催の方向で準備
中。3年ぶりの対面開催実現のた
めに、特にお祈りください。

■信徒局
▽東日本エリア連絡協議会
10日(日) 午後6時 ~ 8時
(Zoom オンライン開催)



▽沖縄地区女性大会
18日(月・海の日) 那覇教会
「認知症と介護について」
講師|| 里村佳子厚生委員長
*女性大会ですが男性の積極参加
を願っております。

■聖宣神学院
▽今月の神学院祈り会(オンライ
ン)は4日(月)に行いました。
▽前期の学びは今月末で終了し、
8月1日(月)から夏期実習が始
まります。

▽BTC夏のフェスタ2022
(8月14、15日、教育局青少年部
と共催)。申込受付中です。
▽秋の入学審査は9月5日(月)
です。必要な方は資料の請求を。
▽後援会では、7月23日(土)、
北日本ブロック世話人会をオンラ
インで行います。

消息報告



▼小川亮太郎師(引退牧師)は、
5月26日に天に召されました。94
歳でした。ご遺族の皆様にごの慰
めをお祈りいたします。

▼王寺教会の中尾敬一師、李仙英
姉ご夫妻に5月30日第三子ご次男
「源喜(げんき)」さんが誕生され
ました。祝福をお祈りいたします。

▼伊藤順子師(引退牧師) 転居の
お知らせ。新住所は左記の通り
です。〒737-0045 呉市本通
4-3-21 呉ベタニアホーム702
教報PDFパスワード|| 4879

発行人 岩上祝仁 編集者 寺村秀嗣
印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇
〇〇〇ビル イムマヌエル綜合伝道団本部
新生宣教団 定価 一部110円(税込)
郵便振替 001107133609